

## 平成 26 年度 チューリップの会 学術研修会開催

7 月 19 日(土) 富山県立中央病院にて、チューリップの会研修会が開催されました。

これまではマンモグラフィに関する内容が多かったのですが、今回は『認知症』をテーマとし、2 名の講師をお迎えし講演していただきました。三連休ではありましたが、看護師の方の参加もあり、多くの方にお集まりいただきました。

講演 1 では、「認知症の診断から治療まで」と題して、富山大学医学薬学研究部 精神神経医学助教の古市厚志先生に御講演いただきました。認知症の診断手順や検査内容、治療薬や患者さんとの接し方についてお話していただきました。認知症といっても背景疾患は様々で、その症状が違ってくるため個別に対応を考えなくてはならないと教えていただきました。また、MRI や SPECT、MIBG 心筋シンチの画像診断での特徴についても併せてお話していただきました。

講演 2 では、新潟より橋本薫先生をお招きしました。橋本先生は、私達と同じ診療放射線技師でありながら、認知症ケア上級専門士の資格もお持ちで、地域の方への講演も積極的に行うなど、ご活躍されています。今回は「認知症患者に学ぶコミュニケーション ～知っててあたりまえ できてあたりまえの認知症ケア～」と題して講演していただきました。医療従事者の、認知症に対しての知識が不足し、正しく理解されていないという言葉にはハッとさせられましたが、先生の経験談を交えてのお話で認知症とは何か、患者さんと接する際のポイントを教えていただきました。認知症の患者さんに限らず、普段の生活や業務に活かせるコミュニケーションのポイントやヒントを得ることができ、これまでの自分の対応を振り返るよい機会となりました。

今回の研修会では、認知症について新しく知ることが多く、またコミュニケーションの大切さについて改めて考えることができ有意義な時間となりました。また、新しいテーマで新鮮な研修会となったのではないかと思います。

富山県立中央病院 伊東 優理



